

効果の見える治水事業（四国・水こぼれ話談話室） 高知県 能津谷川通常砂防事業

高知県中央西土木事務所長 野並伸介



〈地域の概要〉

能津谷川は、流域面積 0.15 km² で一級河川仁淀川へ流入する溪流です。流域内は溪床勾配が急峻で荒廃が進み土石流発生の危険性が高く、下流には村営団地を含む保全人家 10 戸、県道、村道、避難所に指定されている小学校、集会所等があり、砂防事業により保全対象の安全を確保しました。



事業期間：平成 19 年度～平成 28 年度

事業費：約 5.1 億円

堤 高：1 号 12.0m、2 号 10.0m、3 号 11.0m

堰 堤 長：1 号 66.2m、2 号 47.7m、3 号 52.0m

天 端 幅：3.0m

堰堤形式：1・2 号不透過型（コンクリート）、3 号透過型（コンクリート）

〈防災学習から地域への広がり〉

砂防事業と並行し、保全対象である能津小学校での土砂災害防災学習にも取り組んでいます。

工事受注業者もその意義に賛同していただき、工事中の見学会や小学校への砂防堰堤を模したオブジェの寄贈設置など、自主的な協力がありました。

平成 29 年 12 月には、地域の「能津ふれあいまつり」にて、小学生が土砂災害の学習結果を保護者・地域住民に発表し、避難の必要性を報告するなど、子どもたちから防災意識の広がり発展しています。



「人と人、人と自然が輝き合う村づくり」

日高村長 戸梶 眞幸



日高村は、高知県のほぼ中央部で、高知市より西に 16km、車でも J R でも約 30 分の距離に位置する「高知市から意外と近い村」です。村の北部から東部にかけては、水質日本一を誇る奇跡の清流「仁淀川」が流れ、その神秘的な美しさから「仁淀ブルー」という言葉も生まれました。村の中央部に J R 土讃線と国道 33 号が走り、沿線には宅地や農耕地が広がる総面積 44.88 km²、人口約 5 千人の美しい自然、歴史、話題の食べ物など魅力いっぱいの村です。

村の自慢は、山に囲まれた昼夜の寒暖差が大きい気候を活かして栽培される高糖度トマト「シュガートマト」で、ブランドトマトとして全国トップの評価を得るなど大変人気があります。国道 33 号沿線では、シュガートマトを使ったオムライスが食べられる 11 のレストランによる「日高村オムライス街道」が平成 26 年 4 月からスタートしました。また、トマトをはじめとする、村の特産品を販売する直販所「村の駅ひだか」をリニューアルオープンさせ、農業の活性化、雇用の創出、交流人口の拡大に取り組んでいます。平成 29 年には、この取り組みが地域の農林水産物を生かした活性化事業を表彰する農林水産省の「デイスカパーむらの宝」に選定されました。



日高村は年平均降水量が約 3,000 mm と、全国でも屈指の多雨地域です。平地部の地盤が低いため、台風などの集中豪雨で仁淀川本川の水位が高くなると、支川の日下川の排水が困難となり、たびたび大きな浸水被害を受けてきました。また、地質が脆弱で山崩れ・土石流が発生しやすく、昭和 50 年 8 月の台風 5 号による集中豪雨では、平野部のほぼ全域が水没、山間部では多数の山崩れが発生し、土砂災害による死者 25 名、家屋全半壊 141 戸、床上浸水 659 戸、床下浸水 121 戸の未曾有の大災害となりました。これを契機に、国土交通省による日下川放水路整備、高知県による調整池整備などの抜本的な治水対策、砂防事業が進められました。



このたび本村地区において、高知県による砂防事業が完成しました。小学校や村営団地などの施設をはじめとし、地域の安全性が高まることにより、今後、地域住民のより安心で豊かな生活が営まれるものと期待しています。

現在、村では平成 26 年 8 月の台風 12 号、11 号による床上浸水 127 戸他の浸水被害を受け、床上浸水対策特別緊急事業（日下川）により延長 5.3 km の日下川新規放水路の整備等を国土交通省、県、村が一体となり平成 32 年度の完成を目標に進めています。今後とも日高村は安全で安心な村づくりと、それを基盤とした村の魅力の発展に努めてまいりますので、引き続きのご支援ご協力をお願いします。